



2015（平成27）年度の図書館等利用状況

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-11-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 萩原, 弘子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/15063

2015（平成 27）年度の図書館等利用状況

図書館長 萩原弘子

2015（平成 27）年度の『情報』にある統計数値を見ると、本学の 3 キャンパスにある 6 つの「図書館等」が、それぞれの役目を十全に果たしたことがわかる。ここで『情報』にある「図書館等」関連の統計数値に加えて、『情報』にない数値にも注目しながら、本学における学術研究資料購入の現状について述べてみたい。

何をどれだけ購入したか—17：83

2015（平成 27）年度の学術情報資料整備費は、「図書館等」全体で 1 億 8237 万円、うち図書費 1950 万円（11%）、雑誌費 1102 万円（6%）、電子資料費 1 億 5186 万円（83%）である（全体額と内訳額のそれぞれを四捨五入している）。学術情報資料整備費に占める前年度の比率は図書費＋雑誌費で 20%、電子資料費が 80%であったので、格差は 6 ポイント拡大した。ほんの 1 年の経過のうちにも、デジタル化時代の図書館ならではの変化が確認できる。

1950 万円と 6204 万円

図書費についても、電子資料費についても、「図書館等」の支出だけに注意を向けていては、教育・研究のための環境整備の状況を把握するうえで十分ではない。昨年度の『情報』の巻頭言に、本学教員が校費で購入している消耗品図書のことを書いた。図書館の資産になる図書ではないので、本来は図書館長があれこれ言うことでないのは承知だ。そこで書いたように、2014（平成 26）年度の教員による消耗品図書購入は 3770 万円。これは購入の際の伝票から確実に図書であるものに限って集計した金額であった。

2015（平成 27）年度についても、同様の調査を、財務課の協力を得て行なった。総件数 7251 件、総額 7812 万円のうち、消耗品図書費は 6204 万円であった（他に雑誌 1042 万円、電子ブック 42 万円、電子ジャーナル 56 万円、データベース 468 万円）。昨年度に実施した調査は私が 1 人でしたものだったのに対して、今回行なった調査は学術情報室の職員が複数で取り組んだので、精度の点で格段に信頼できるものになった。教員の校費による消耗品図書購入費が 2014 年度 3770 万円、2015 年度 6204 万円という違いは、購入行動の変化の結果ではなく、調査精度が上昇した結果と見るべきだろう。

消耗品図書購入 6204 万円という数字を図書館予算中の図書費 1950 万円と並べると、いろいろなことを考えさせられる。6204 万円で購入された図書は、おそらく教員たちが手元に置いて日々の教育・研究活動に使っているものだろう。本学で購入される図書のなかで最も専門性が高く、使用頻度も高い本である可能性が大である。これらの図書の多くは、教員の転出、退職とともにただ消えてしまう。大阪市立大学では、校費で購入する図書はすべて資産登録される。今後、統合を視野に入れると、本学の図書購入については、図書館に限らない課題があるのはまちがいないだろう。

年 8 万 3000 冊と月 10 万件

ディジタル化時代にあつて、図書館の利用状況を把握するには、入館者数と館外貸出冊数だけでは不十分である。それでも入館者数と館外貸出冊数の変化は、多くのことを語っている。学術情報センター図書館の入館者数を見ると、2015（平成 27）年度は年間 25 万 2331 人で、この 3 年間、年 2 万人のペースで減少している。「図書館等」全体について館外貸出数を見ると、総数 9 万 4555 冊、うち院生・学生が 7 万 6316 冊、教員 6753 冊である。3 年間の推移を見るかぎりでは増減一定しないものの、長期で見ればはっきりと減少傾向にある。教員の館外貸出数の減少と、上記で述べた消耗品図書購入に直接の関連があるとまでは言えないが、今後もこれら 2 種の図書購入金額に注目しておく必要があるだろう。

館外貸出冊数の減少傾向とは対照的なのが、リポジトリアクセス数である。コンテンツ数は年々増加しているとはいえ、まだ 1 万件程度である。ところがアクセス数の増加は目覚ましく、前年度比で閲覧が 19%増、ダウンロードが 53%増である。年間ダウンロード数 119 万 7212 件、つまり月平均約 10 万件だ。この数字を、先に挙げた年間の館外貸出冊数 8 万 3000 余冊（院生・学生と教員合計）に比べれば、いま図書館がどういう場所になっているかがよくわかる。

リポジトリへのアクセスで社会の関心を測る

月間ダウンロード数 10 万件というのは、なかなかの数字である。リポジトリのトップ頁では、前月の月間ダウンロード数上位 20 位を掲載している。ダウンロードの 99.7%は学外からのアクセスである。ダウンロード対象に日本語、中国語で執筆されたコンテンツが多いのを見ても、また総数の規模が大きいのを見ても、学外からのダウンロードのほとんどは本学に在籍しない文字通りの学外者によると推測される。またダウンロード件数が多いコンテンツを見ると、いま社会的にどういうテーマへの関心が高いかを測る目安にもなる。本学の研究成果の何が社会の関心に沿うものであるかを示している。本学の未来を考える際に、この種の統計にももっと目を向けてほしいと思う。